慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行部数　比金　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話＝(3353)1211（代表）

KEIO 150
Design the Future

第88回慶應医学会総会 シンポジウム開催

シンポテーマは「新興・再興感染症とその対策」

平成二十年十一月十四日午後三時より、慶應義塾大学病院新棟十階大会議室において慶應医学会総会が開催された。

栗林幸夫慶應医学会副会長の開会の辞により総会が開始され、新監事の紹介、庶務報告、会計報告、事業計画（案）、予算（案）についての報告がなされ、承認された。

次いで、成二年度、四会競励賞授与式が行われ、比金三四会長より名の受賞者の表彰状とそれぞれの部賞が授与された。今年は、臨床医学分野から四名、基礎医学分野から二名の三四会員が受賞した。

慶應医学会総会と併せてシンポジウム「新興・再興感染症と老の対策」が開催された。今回は、厚生労働省医師国試課長・専門医指導官、三邦明氏からは「行政からみた感染症」、抗ＨＩＶ薬から考えることを通して、国際的視点から見たＨＩＶ関連と政策について講演を頂いた。先に最近本邦でも増加傾向にあるＨＩＶ感染症、進展では適切な薬物療法により死に率は低下、慢性疾患へ変貌したＨＩＶ感染症も、発展途上国では、ＨＩＶ関連の報告が増加しており、医療の進展が期待される。また、ＨＩＶ関連の封じ込め対策よりむしろ診療体制の整備に注力すべきとの見識が示された。

都立駒込病院感染症科部長として第一線でＨＩＶ診療に携わっておられる中澤慶氏からは国内外の具体的に示された。国際的に見ると有病率の比較的低い本邦においても感染者が増加しており、医ににおける併症対策などじわじわと深刻な問題が顕在化する可能性があること、適切な対策の必要性が強調された。

現在、本塾医学部熱帯医学・寄生虫学教室に属する、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所で主にバイオテロ対策に携わっている齋藤智也氏からは、国家安全保障上の問題としてのバイオテロの脅威と過去の事例が紹介された。米国の一連の配炭菌騒動、国際社会の不安と性が増幅しているが、ここにおいて、「これからの大学病院のあり方」について問われていただいた。

将来を見据えて医師自らが発言する

――今、慶應大学病院を含めた多くの大学病院が直面している問題とどのようなことでしょうか。

黒川　本来、医者というのはどこでもやりがいの慶應ファンもたくさんいるはずだと思えないほど疲弊してしまっている医療は大きな社会問題であり、政府も積極的に対応すべきです。

しかし、ここに医者側の反省がないのも問題です。医者が足りないと言う前に、医者側からも大きな政策転換の話が出てこないところが、医者によって発言はバラバラで、特に大学病院の人はやめてしまった方がいい、というようなことを言われる。

――黒川先生は、著書の中で「大学病院は外来をやめてしまった方がいい」と言っておられたが、そうした大学病院の立場つまり「五年、十年、二十年と経ったとき、どうなるか」を問われて、書いていますが。

黒川　何かを失くさなければならないのは、国民の意識の変化であると言うのが医療側にもっとはっきりしていいのです。

戸山　おっしゃる通り、我々医者側からアピールする方法を考えることは、国民性から考えてもなかなかだ。

黒川　カルテやデータは慶應大学病院とそれらの医療機関とで共有できますし、ＩＴ化もできますから、慶應の部はＩＴ大学病院で検査や入院をするようにしてもスムーズです。これで慶應大学病院は、多くの外来を受けさせる必要がなくなりますし、一二年ごとに再任等を願いする、相応しくない患者さんも安心してクリニックに通院してくれるはずです。

クリニックや病院によっては共同経営など、将来的には慶應で引き継ぐ、次第にクリニックや病院の連携が強化され、医業の継承、統廃合なども起こります。慶應大学病院が、地域の中の決められた、地域の医療人が、地域の医療を担う、という形になっていくことです。

――視点を変えて、行政から病院に支援金機器が、ＭＲＩ、ＣＴなどの高価な機器は、各々の患者さんが、フルタイム、パートを問わず、医療人がダイナミックに動き、参加する。今は日本の常識と制度に縛られても、大学病院は最終病院であるべきで、重症で、どこでも手に負えないと言われたような人々を救う必要はない。公立病院の役目は、日本の武蔵二病院長と、医療費抑制は成功となるべきで、病院経営はさらに厳しい状況を迎え、医療者のものの良い方向に向く気配はない。公立病院の倒産はもとをただせば、医師不足が原因であり、現厚生労働省は医師養成数増加へ方針転換を決定した。新医師研修制度についても、見直しが進みだした。研修医に基づく計画が立てられ、患者さんが、医師を選択する時代に入ったのだ。

――「高価な機器を集中させ高度先端医療を提供」

黒川　慶應なりの大学病院は、もっと専門的に、集中的に、高度先端医療を提供する、ということです。

――「独立自尊」の精神で「日本代表」を牽引

――創立百五十年を迎え、考えていきたい。アメリカやイギリスなどに比べ、日本は、まだまだ遅れている。国際的に、「一応」などにあるようなことです。

黒川　日本は物事を、ルに広がる世界で活躍、連携することは、学生時代から、半年でも海外に出かけ、バル社会から広く支持を得る戦略的広報も大事で、ハ人もいた。それ、特に学部時代にハーバードに出て世話になった人や、子どもが お世話になった人たちでした。慶應塾は日本人だけじゃ海外の人たちのためにも、仲を広げる、中高校、大学でも交換学生を送りたいですね。一年間、海外の人たちが、慶應塾で、学んで、帰国、日本の人たちのために、国際的に推進する問題があり、産科医不足をはじめとする問題、産科医療の厳しい実態が、日本の医療を取り巻く、高齢者医療制度は表現も内容もたちまち批判の渦に巻き込まれた。国会では制度そのものを見直す、提案の議論が現も進行、提案の議論が現も進行、医療費抑制は成功となる、病院診療所の受診者は減少、病院経営は、厳しい状況を迎え、医療者の、病院経営はさらに厳しい状況を迎え、医療者の、病院経営はさらに厳しい状況を迎え、医療者の、病院経営はさらに